

# 「輝こう！あまがせ」の種を蒔いて

日田市天瀬公民館

館長 日野 和則



## 1 日田市天瀬公民館

日田市天瀬公民館は、昭和47年に天瀬町中央公民館として開設され、平成17年の市町村合併により、日田市天瀬公民館として、指定管理を受けた一般財団法人日田市公民館運営事業団が運営し、現在、天瀬公民館、東溪分館、五馬分館を職員2名（日野和則館長・神山淳主事）で担当しています。

天瀬町は、日田市の東部に位置し、面積101.83平方キロメートル、平成30年1月現在、人口4,751人（1,953世帯）の小さな町で、自然に恵まれ、天ヶ瀬温泉や高塚愛宕地藏尊等多くの観光名所があります。

当公民館は、地域の力を育む社会教育、生涯学習活動等の推進を掲げ、地域に密着した事業を行い、「誰もがちょっと寄ってみたいくなる、魅力溢れる、開かれた公民館づくりを目指しています。

## 2 生涯学習から「まちづくり教育」へ

ご承知の通り社会教育法第20条目的は、實際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること。

又、第22条の事業については、

- ①定期講座の開設。
- ②討論会、講習会、後援会・・・等の開催。
- ③図書、記録、資料等を備え、その利用を図る。
- ④体育、レクリエーションの開催。
- ⑤各種の団体、機関等の連絡を図る。
- ⑥施設を住民の集会その他の公共的利用に供する。

と規定されており、昭和24年に施行されたこの社会教育法は、地域の「まちづくり」については、殆んど触れられていないのが現実です。

言い換えれば、この法律は、時代の潮流にそぐわない、制度疲労を起こしていると言っても過言ではなく、私は、いささかこの法律に疑問を感じているところです。

以前、「霞が関の掟」という官僚言葉を聞いたことがあります。

「先輩が苦勞して考え、制定した法律は、例え疑問が生じたとしても、後輩が改正することは、至難の業である」・・・という意味らしいのです。

戦後作られた法律、昭和から平成そして次の時代にと流れは加速しているが、法律はそれについていけない感がある。

昔、日田市の下笠ダム反対闘争で、室原知幸翁が蜂の巣城に立てこもり、地元住民たちと国との闘いで喝破した言葉、「法に叶い、理に叶い、情に叶う国であれ」を思い出し、私も社会教育法の早急な見直しに、心血を注ぐ覚悟である。

又、市町村合併後の天瀬町の急激な人口減少、高齢化、少子化等の現状を鑑みると、法律改正を待たずして、公民館運営は、生涯学習よりむしろ、コミュニティを含めた「まちづくり教育」が喫緊の課題であると感じました。

時代の潮流、地方創生の動きを的確に捉え、地域に活力を取り戻すため、私は、新たに、「輝こう！あまがせ・元気で魅力溢れる公民館づくり」をスローガンに掲げ、地域の人々が共に支えあい、安心安全に暮らせる地域力の向上を目指しました。

「足下に泉あり」もう一度地域を見直し、旧来の物事に囚われず、発想を変え未来志向で取り組みれば、そこに新しい可能性が見えてくる。

そう信じて、地域力向上を念頭に、生涯学習は勿論であるが、多くの知恵を結集させ、果敢に挑戦する人を育てる「まちづくり教育」に方向転換したのです。

### ③ 別府大学との交流・連携

公民館での「まちづくり教育」に、自問自答しながら悩んでいました。

そんな中、私の現役時代の雑学ノート「変革への挑戦」を再読していると、二つの「まちづくり論」が記されていました。

- ①地域を活性化するためには、まずその「地域を知る」ということから、始めることが大事である。
- ②アメリカの政治学者パットナムのソーシャルキャピタル論では、信頼・規範・ネットワークを活発化し、「人の交流が盛んになればなるほど、地域は活性化する」

このことこそ、まちづくりの基本ではないかと、感じたのです。

一人ひとりの「心」を大切にし、人とひととの「繋がり」、多くの人々のネットワークが生まれる地域づくり、正にこれが「まちづくり教育」だと確信したのです。

「地域を知る・交流人口・心の繋がり」を、キーワードに事業展開を考えました。

私の頭の中にいつも浮かんでくる光景、町の中に大学の教授・学生たちが居て、地域の人々が教授達から知識を学び、学生と楽しそうに会話し、学生が町を歩く姿、これを事業に取り組み、まず交流人口の増を図ろうと決心したのです。

そんな中、知恵をお借りしたいと思ったのは、私が、日田市役所勤務時代、日田市の第四次総合計画策定に審議委員でお世話になった、松田美香別府大学文学部教授でした。

藁をもつかむ思いで十数年ぶりに電話で連絡すると、懐かしい声で快く話を聞いて頂きました。



松田美香教授の講演

「天瀬には、宝がいっぱい眠っています。とにかく、天瀬町に学生さんや教授を連れてきて刺激を与えて欲しい」と強引にお願いし、松田教授の快諾を得て、平成25年度から別府大学と天瀬公民館の交流が、正式にスタートしました。

交流の詳細は、紙面の都合上省略しますが、別紙に交流経過を、時系列で掲載していますのでご参照下さい。

#### 4 天瀬の「まちづくり権への挑戦」

—自分たちのまちは、自分たちで創る—

別紙交流経過の通り、天瀬公民館（地域住民）と別府大学の交流は、延べ28回を重ね、地域の住民が、別府大学の教授や学生達と知り合い・親しみを持つようになりました。

中でも、平成28年11月からは、別府大学地域社会研究センターと天瀬公民館が、天瀬地域のまちづくり・人づくりを目指した「天瀬まちづくり大学に関する協定」を締結し、天瀬住民による「天瀬まちづくり大学」を開講し、別府大学の教授陣による講演・指導を受け、まちづくり活動の知識や気運の醸成を図りました。

最終講の「第4回まちづくりシンポジウム」では、5年間の総括「天瀬のまちづくり権」をテーマに、別府大学の学生代表が「若者が住みたい、訪れたい天瀬」について、温泉熱を利用したバイナリー発電・サイクリングロードの整備と着替えや組み立てが出来るサイクリングハブの設置・天

ヶ瀬温泉郷丸ごとお化け屋敷計画等の提案があり、又、篠藤明德教授が「これからの天瀬のまちづくり」と題して講演、地元まちづくり団体代表からの意見も多くいただくなど、活発な議論が交わされました。



人間関係学科の2年生と住民の対話

夜なべ談義では、酒を酌み交わしながら、夜の明けるのを忘れて、別府大学の教授陣・学生達・天瀬の地域住民と「幸せを感じるまち天瀬の創生」について熱き思いを、語り合いました。

また、小中学校や地域住民との交流、観光協会・旅館組合・天瀬地区商工会青年部の事業等でも別府大学学生の協力を得るなど、5年間で、別府大学の教授・学生を含めると、延べ600人が天瀬町を訪れました。

大学が地方の小さな町の「まちづくり」に、これだけ積極的に関わったのは、全国的に見ても、別府大学が初めてではなかろうかと、そのご厚意に対し改めて感謝、感激しているところでございます。

今後は、地域住民が、「天瀬のまちづくり権への挑戦」・・・自分たちのまちは、自分たちで創るという気概を持って、別府大学から学んだ多くの「知恵と知識」を、天瀬のまちづくりに生かしていくことが、別府大学へのご恩返しであると考えております。

#### 5 「輝こう！あまがせ」の花が開くのを願って

最後に、私の好きな言葉を贈ります。天瀬の地

域住民や別府大学の皆様、多くの方々にお会いし、出逢いの大切さを改めて、感じさせられました。

「我逢人(がほうじん)」…(我、人と逢うなり)

人と逢うことから、全てが始まる。

人とひとの出逢いの尊さを、三文字で表した言葉です。

心とこころの出逢い、物ともの出逢い、人とひとの出逢い、

出逢いこそ命です。

自分だけ考えて、自分だけ行動していたのでは、見つからないことがあります。

だから、その人との出逢いこそが、全ての始まりだと思ふ、感動の言葉です。

構えた格好でも、些細な偶然でも、人との出逢いは、何かを生みます。

人は、自分とは違う領域を持って、生きています。

だから、出逢いは、あなたを広く深く、成長させてくれます。

人と逢うことを大切に。

人に会える場を大切に。

人と逢う姿を大切に。

日々お忙しい中、貴重な時間を費やして頂いた、別府大学の佐藤瑠威学長、飯沼賢司文学部長、篠藤明德教授、松田美香教授を始め、講義・ご指導・ご協力頂いた教授陣や学生の皆様方、関係各位に敬意を表すると共に、改めて感謝申し上げます。

私は、平成30年3月に6年間の日田市天瀬公民館の勤務を終えますが、天瀬地域住民が、別府大学から学んだ「輝こう！あまがせ」の種を、いつの日か「つぼみを開かせ、綺麗な花を咲かせてくれる」事を信じ、願っております。

## 別府大学と天瀬公民館の交流経過

平成25年5月2日

- ①別府大学日本語教育研究センター（松田美香教授）の留学生・教員65名が、天瀬町の「ローズヒルあまがせ」で150種類以上のバラの花を觀賞後、天瀬地域住民と親睦グラウンドゴルフ交流。



住民とグラウンドゴルフ

平成25年6月22日

- ②別府大学短期大学部地域総合科学科（池口功晃准教授）学生・教員24名が、「学生が見つけた天瀬町の魅力」をテーマに、慈恩の滝、天ヶ瀬温泉街、顕徳望尊、高塚愛宕地藏尊で現地研修。

平成26年5月2日

- ③別府大学日本語教育研究センター（松田美香教授）の留学生・教員64名が、五馬中学校を訪問、中学生とフォークダンスや合唱、学校給食の食事等で交流。

平成26年11月28日

- ④天瀬公民館運営委員・寿学級役員21名が、別府大学訪問。

「大分香りの博物館」を見学後、文学部篠藤明德教授の「人口急減と地方消滅・地域における公民館の在り方」を受講。

平成27年 3月13日

⑤別府大学地域社会研究センター(篠藤明德教授)のメンバーとまちづくりシンポジウム開催。

第一部 プレゼンテーション 「地方創生と天瀬町」・篠藤明德教授

第二部 パネルディスカッション 篠藤教授・松田教授・池口准教授と天瀬住民代表6名

第三部 夜なべ談義「語ろう!あまがせ」

平成27年 5月1日

⑥別府大学日本語教育研究センター(松田美香教授)の留学生・教員38名が、東溪中学校を訪問、中学生と校歌や各国の歌を披露。日本の遊び、学校給食等の交流。

平成27年 9月3日～平成27年 9月4日

⑦別府大学国際交流会(顧問松田美香教授)のメンバー13名が、天瀬地域住民とバーベキューでまちづくり談義。二日目は、地元本城1生産組合員と案山子づくり体験。「本城案山子祭り」で別府大学生の作品展示。

平成28年 1月30日

⑧別府大学文学部松田美香教授が、「九州の方言・大分の方言」と題し、天瀬公民館成人セミナーで講演。

平成28年 2月26日

⑨別府大学地域社会研究センター(篠藤明德教授)のメンバーと第2回まちづくりシンポジウム「地方創生における天瀬」開催。

第1部

報告1 「観光から見た天瀬町」

池口功晃准教授

報告2 「学校の統廃合と天瀬町」

長尾秀吉准教授

基調講演 「地方創生と天瀬町」

篠藤明德教授

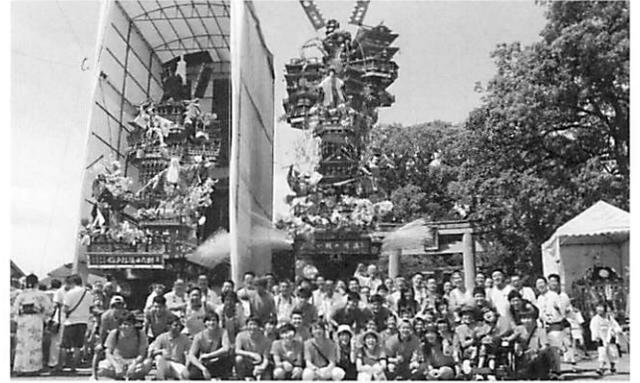
第2部 パネルディスカッション

司会 松田美香教授

第3部 夜なべ談義「語ろう!あまがせ」

平成28年 7月23日

⑩別府大学国際経営学部国際経営学科(池口功晃准教授)学生・教員31名が、午前中、天瀬町の株式会社グリーン発電大分で木質バイオマス発電事業を研修、午後日田祇園祭に参加、川原町祇園山鉦を体験。



国際経営学部の学生と祇園山鉦

平成28年10月30日

⑪別府大学吹奏楽団(安部えつ子監督)25名が、「第13回あまがせ公民館まつり」に特別出演。

平成28年11月17日

⑫天瀬公民館「天瀬まちづくり大学」開講式  
別府大学地域社会研究センター長(篠藤明德教授)と天瀬公民館(日野和則館長)が、天瀬地域のまちづくり・人づくりを目指した「天瀬まちづくり大学に関する協定」を締結し、「天瀬まちづくり大学(学長篠藤明德)」を開講。

開講式及び第1講

講演 「天瀬の歴史」

別府大学文学部長 飯沼 賢司



天瀬まちづくり大学調印式

平成28年12月2日

⑬別府大学日本語教育研究センター（松田美香教授）の留学生・教員27名が東溪小学校を訪問、小学生と日本の子ども達の遊び授業、学校給食の食事等で交流。

平成28年12月17日

⑭「天瀬まちづくり大学」

第2講 講演「自然エネルギー開発で、地域活性化は可能か」

別府大学 阿部 博光教授

平成29年1月21日

⑮「天瀬まちづくり大学」

第3講 講演「地域で元気に、しあわせに」

別府大学 西村 靖史教授

平成29年2月25日

⑯別府大学地域社会研究センター（篠藤明德教授）と第3回まちづくりシンポジウム「魅力あふれる天瀬の創生」開催・「天瀬まちづくり大学第4講」

第1部 基調講演 「ICTと経営」

別府大学 是永 逸郎教授

第2部 パネルディスカッション

司会 篠藤 明德教授

意見発表

天瀬町地域おこし協力隊 近藤 真平

天瀬町集落支援員 高瀬 三枝

日田市民 牛王 賢治

パネリスト

西日本新聞大分総局長 橋本 洋

第3部

夜なべ談義「語ろう！あまがせ」

平成29年5月2日

⑰別府大学日本語教育研究センター（松田美香教授）の留学生・教員29名が、いつま小学校を訪問、小学生が考えた遊びやゲーム、学校給食、美術の共同制作・バラの花のデザインを描き、貼り合わせるワークショップ等で交流。

平成29年5月14日

⑱別府大学吹奏楽団（安部えつ子監督）25名が、「第22回遊花祭」でステージ演奏、終了後地元テナントで販売活動を行い地元住民と交流。



別府大学吹奏楽団

平成29年5月27日

⑲「天瀬まちづくり大学」

第5講 講演「地域（エリア）マーケティング」

別府大学 鄭玫朱

（チョン・ヒョンジュ） 教授

平成29年6月10日～平成29年6月11日

⑳「大分方言談話」調査会（代表 別府大学 松田美香教授）他3名が天瀬方言会話を調査。天瀬地区の中学生、一般の男女8名が日常会話を天瀬の方言で喋り、それを録画・録音。

平成29年7月22日

㉑別府大学国際経営学部国際経営学科（池口功晃准教授）学生・教員17名が、午前中、日田祇園祭に参加、港町祇園山鉦を体験。午後、世界遺産登録を目指している咸宜園で、廣瀬淡窓を研修。



国際言語・文化学科学生のガラス戸制作

平成29年7月25日

②② ガラス戸絵プロジェクトで、別府大学安松みゆき教授、篠崎悠美子教授、松田美香教授他、学生3人が、天瀬公民館玄関のガラス戸絵の制作について現地視察・協議。

平成29年8月5日

②③ 「天瀬まちづくり大学」  
第6講 講演「農業の6次産業化」  
別府大学 上野 恵美 助教

平成29年9月4日

②④ 天瀬公民館の玄関に、別府大学・安松みゆき教授、篠崎悠美子教授、松田美香教授、事務局広報室員・石川万美さん他、国際言語・文化学科学生12名がガラス戸絵制作。  
(天瀬の観光資源をイメージしたデザイン画)

平成29年11月17日

②⑤ 第7講 講演「ドイツ人から見た天瀬の景観」  
ハイデルベルク大学大学院  
篠藤 マリア 准教授

平成29年11月25日

②⑥ 別府大学文学部人間関係学科(篠藤明德教授・西村靖史教授・長尾秀吉准教授)学生・教員63名が、「地方消滅地方創生を考える」をテーマに午前中、高塚愛宕地藏尊、なかべりの里、塚田温泉などを視察、午後は、天瀬町の住民と観光や生活環境などで意見交換を行い、後日学生の目線で「地方創生」の提案を天瀬町に行く。

平成29年12月4日

②⑦ 天瀬公民館「天瀬まちづくり大学」の受講生17名が、別府大学で講義 研修。  
講義 「別府大学焼酎『夢香米』と今後の展望」  
別府大学食物栄養科学科 岡本 啓湖 教授  
講義 「大学史を学ぶ」  
別府大学文学部 飯沼 賢司 教授  
視察 別府大学香りの博物館(篠藤明德教授)

平成30年2月17日

②⑧ 別府大学地域社会研究センター(篠藤明德教授)と第4回まちづくりシンポジウム・総括「天瀬のまちづくり権」  
天瀬まちづくり大学閉校式。

第1部

基調講演 「これからの天瀬のまちづくり」  
別府大学 篠藤 明德教授

第2部

「学生目線で天瀬地方創生・若者が住みたい、訪れたい天瀬」  
意見発表 別府大学文学部人間関係学科  
「天瀬まちづくり大学」閉校式

第3部

「語ろうあまがせ」夜なべ談義

②⑨ 「天瀬まちづくり大学」公開講座  
特別講演

- ①大分県知事 広瀬 勝貞 (日田市出身)
- ②元日弁連事務総長 弁護士 寺井 一弘 (東京都)
- ③別府大学名誉教授 後藤 宗俊 (日田市出身)
- ④元経済産業省 矢野友三郎 (天瀬町出身)

③⑩ 日田地区商工会青年部事業  
地域を守り、地域を活性化するプラン  
「留学生による観光資源調査及び商品開発調査」

平成29年10月11日

別府大学松田美香教授他留学生40名が鯛生金山・水辺の郷おおやま  
高塚愛宕地藏尊視察及び試作中の地元の新商品のアンケート調査実施。